



奨励賞

設計部門



鳥瞰図



①上段と中段を一体的に結んだ斜面遊具 ②斜面遊具で遊ぶ子どもと見守るお父さん ③かつてはこの空に、富士山と豊島園の花火が見えた ④⑤ツツジ類の名所化を図る

大谷口二丁目児童遊園

有限会社プラネット・コンサルティングネットワーク
岡島秀子・岡島桂一郎・鎌原史英・北島千恵里
田中宏樹・高田大貴

板橋区立大谷口二丁目児童遊園はとても小さな公園です。急傾斜地にあり、多くが斜面と擁壁、そして階段で占められています。かつては富士山への眺望や豊島園の花火を楽しむ、地域の大切な広場でしたが、今はその眺望は失われ、利用は少なくなりました。しかし、『公園を使いこなす』ことが求められている現在、身近な小公園こそ日常的コミュニティの核とならなくてはなりません。

利用されない中段広場及び斜面地活用のため、斜面遊具（滑り台）と散策路で、上段と中段を一体空間としてつなげ、斜面遊具の滑り口からは、空が広い、開放感のある景観を楽しめるようにしました。中段広場の健康遊具は、斜面遊具を楽しむ子ども達を見守りながら、お父さんやお母さんが利用できます。

また、4月中旬～5月上旬の花の名所化を図るため、江戸園芸ツツジやシャクナゲを加え、ツツジ山とし、高木には紅白のハナミズキを多用し、新しい利用価値を吹き込む改修設計としました。

改修整備

作品概要

作品名—— 大谷口二丁目児童遊園 改修整備
所在地—— 東京都板橋区大谷口二丁目63番5号
発注—— 板橋区土木部みどり公園課
設計—— 有限会社プラネット・コンサルティングネットワーク
協力—— 長谷川測量株式会社東京営業所(測量)
有限会社樹工房(鳥瞰図作成)
監理—— 板橋区土木部みどり公園課
施工—— 重設工業株式会社
設計期間—— 令和 元年7月～令和 2年3月
施工期間—— 令和 2年7月～令和 3年3月
規模—— 1,665m²
主要施設—— 53段階段(既存+更新)、斜面遊具、健康遊具、
既存遊具(幼児用滑り台(移設)、シーソー(移設)、低鉄棒(更新))、
4種類のベンチ、ツツジ類の植栽

作品評

今日、児童遊園や小規模な街区公園は、幼児・児童数の減少や使いづらさ、施設の老朽化などから利用者が減少し、存在感が低下しているものも多い。

本作品もそうした問題を抱える「利用度の低い公園」であるが、応募者は「使われる公園にする」という明確な目標を立て、「特徴的な遊び場をつくる」、「高齢者の健康づくりの場とする」、「地域住民の集いの場とする」、「花の名所をつくる」などの方針に沿った動線・施設・植栽の全面的な改修を進め、一体感のある利用しやすい公園空間を実現させている。

こうした試みは分析不足などから十分な成果が得られていない事例も多いが、この公園は利用者数が大きく増え、身近な公園の存在価値を高めた事例として評価できる。

しかし、説明資料のまとめ方などにもう少し工夫が欲しかったなどの意見もあり、奨励賞となった。